

令和4年定例会 防災県土整備企業常任委員会 所管事項説明資料

【経営関係】

- 1 令和4年度の組織体制について 1
- 2 令和4年度当初予算のポイント・主要事業 3
- 3 令和3年度決算見込額の概要について 6

【事業関係】

- 1 水道用水供給事業 8
- 2 工業用水道事業 15
- 3 電気事業（RDF焼却・発電事業） 20

〔資料〕

- 企業庁事務分掌（本庁） 23

〔別冊〕

- 令和4年度三重県企業庁事業概要「水の恵み」
- RDF焼却・発電事業の総括 中間報告書（令和4年3月三重県）

令和4年5月26日

企業庁

【経営関係】

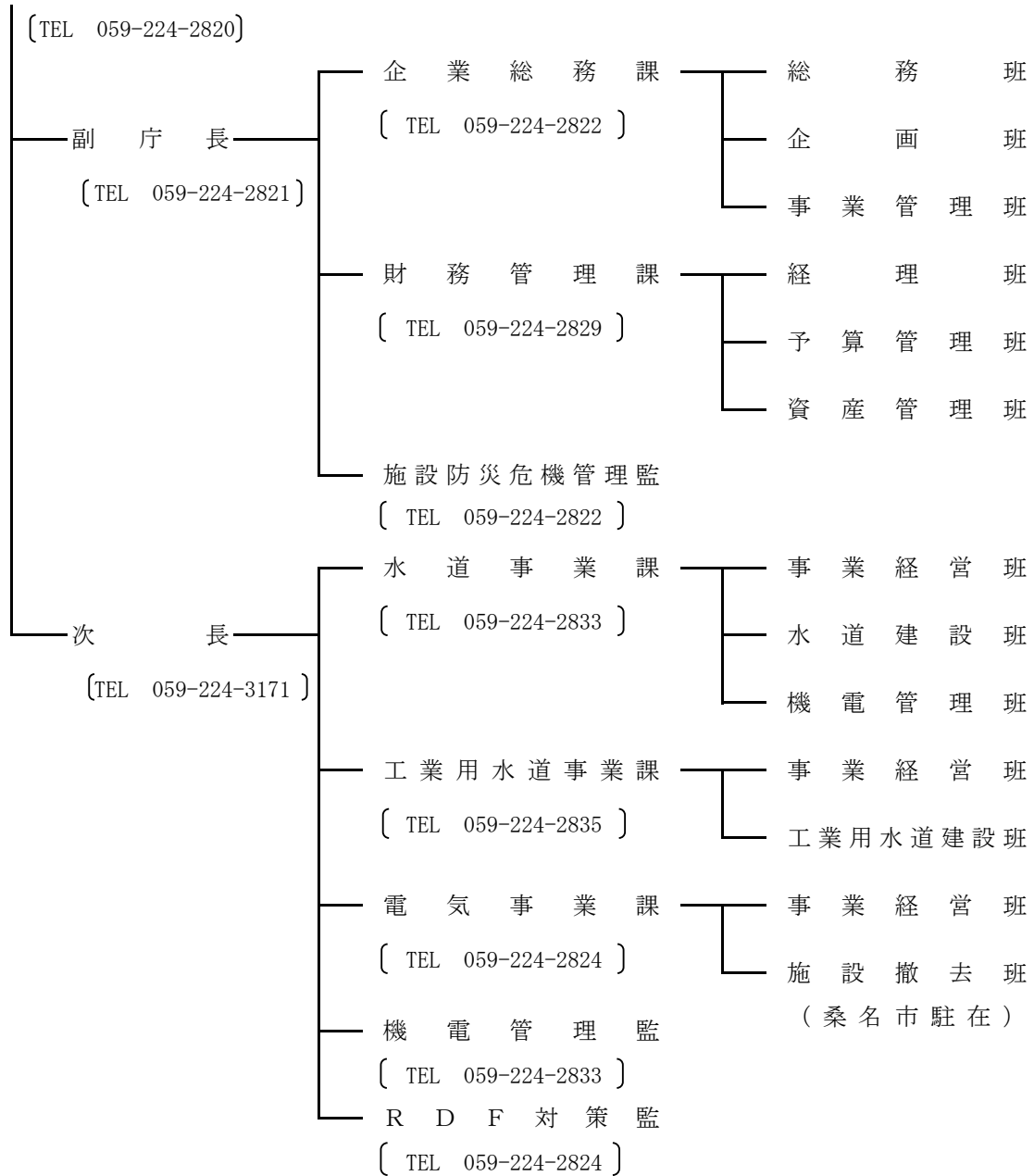
1 令和4年度の組織体制について

(1) 組織図 (5課4事業所)

(令和4年4月1日現在)

① 本 庁 〒514-8570 津市広明町13

企 業 庁 長 [公営企業管理者]



(2) 職員数

① 本 庁

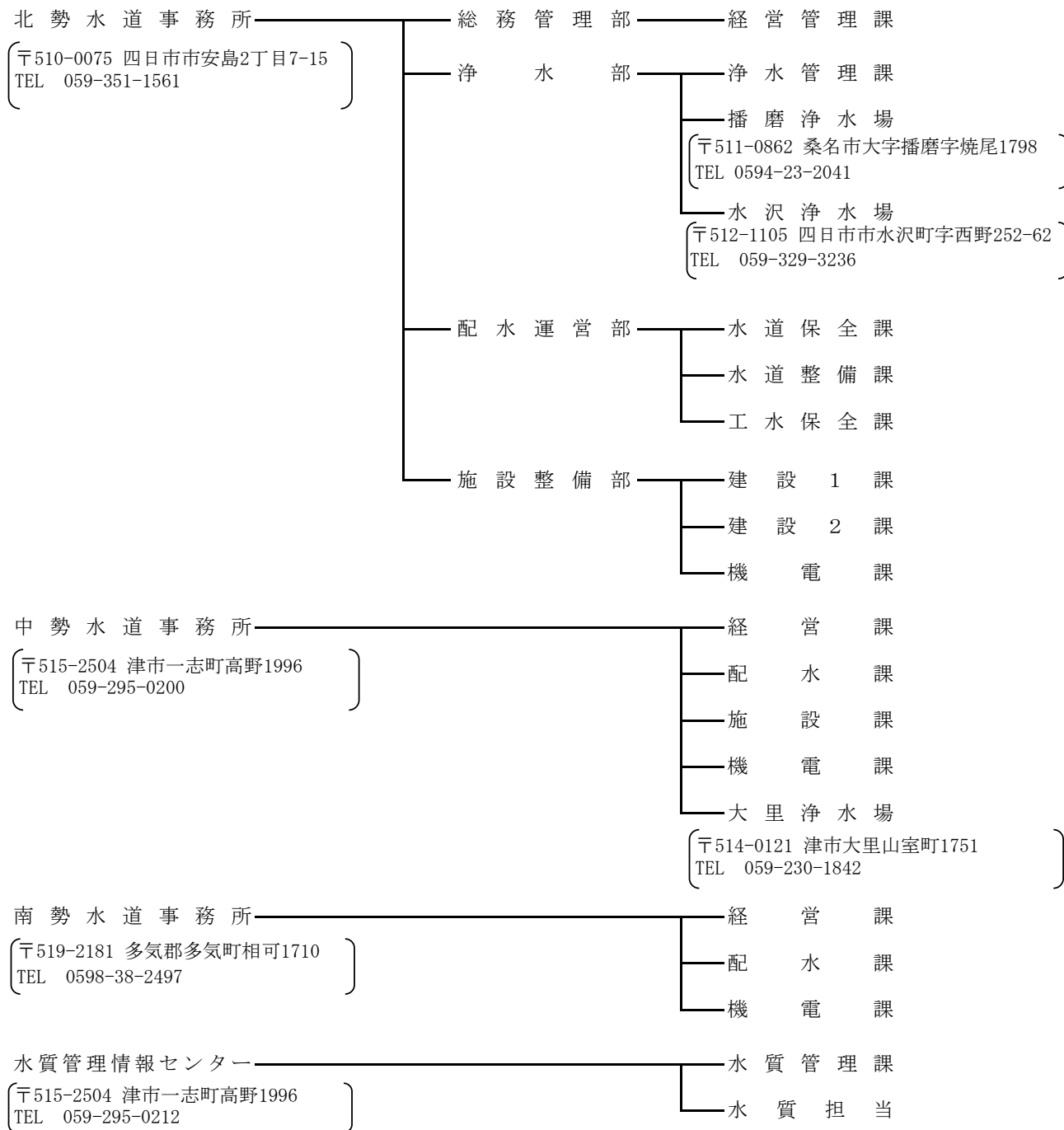
区 分	職員数
副 庁 長 ・ 次 長 ・ 施設防災危機管理監 ・ 機 電管理監 ・ R D F 対策監	5
企 業 総 務 課	16
財 務 管 理 課	12
水 道 事 業 課	11
工 業 用 水 道 事 業 課	8
電 気 事 業 課	9
小 計	61

② 事業所

区 分	職員数
北 勢 水 道 事 務 所	65
中 勢 水 道 事 務 所	27
南 勢 水 道 事 務 所	16
水質管理情報センター	11
小 計	119

合 計 ①+②	180
------------	-----

② 事業所



(3) 職員数の推移

	H30		R元		R2		R3		R4	
	人数	増減	人数	増減	人数	増減	人数	増減	人数	増減
本庁	61	—	61	—	61	—	58	△3	61	3
事業所	124	△1	124	—	119	△5	120	1	119	△1
計	185	△1	185	—	180	△5	178	△2	180	2

2 令和4年度当初予算のポイント・主要事業

(1) 予算編成にあたっての基本的な考え方

企業庁では、「県民の日常生活や経済活動に欠くことのできない広域的なサービスを提供することで、県民のくらしの安全・安心の確保や地域経済の発展に貢献する」という経営理念を掲げ、三重県企業庁経営計画（以下「経営計画」という。）に基づき、事業運営を行っています。

令和4年度当初予算については、経営計画の取組を的確に進めていくことを基本におき、水道・工業用水道事業では、将来、発生が予想される南海トラフ地震などの大規模地震に備え、より一層、耐震化を進めるとともに、老朽化対策等を着実に実施します。

電気事業では、引き続き、関係市町等と連携し、RDF焼却・発電事業の円滑な終了に向けて取り組むとともに、RDF焼却・発電施設の撤去等の取組を進めていきます。

(2) 主な重点項目

ア 強靱な水道及び工業用水道の構築

予算額 9,765,353千円

大規模地震などによる被災を最小限にとどめられるよう、施設の耐震化をより一層進めます。また、将来にわたり水道用水及び工業用水を安定して供給できる状態を維持するため老朽化対策等に取り組み、強靱な水道及び工業用水道の構築をめざします。

(ア) 水道施設改良事業

予算額 4,658,677千円

水道用水を安定的に供給できる施設機能を維持するため、北中勢及び南勢志摩水道用水供給事業の施設の更新や改良等を計画的に行います。

- ①耐震化 1,845,910千円
 - ・内径800耗送水管布設替工事（津市） 他
- ②老朽化対策 2,198,472千円
 - ・多気浄水場送水ポンプ棟電気設備改良工事（多気町） 他
- ③その他（配水運用の強化など） 614,295千円
 - ・取水・導水施設詳細設計業務委託（桑名市） 他

(イ) 工業用水道施設改良事業

予算額 5,106,676千円

工業用水を安定的に供給できる施設機能を維持するため、北伊勢、中伊勢及び松阪工業用水道事業の施設の更新や改良等を計画的に行います。

- ①耐震化 153,036千円
 - ・みづと採造取水所取水ポンプ井耐震補強工事（津市） 他
- ②老朽化対策 4,468,085千円
 - ・内径1800耗制水弁取替工事（桑名市） 他
- ③その他（配水運用の強化など） 485,555千円
 - ・配水管測量設計業務委託（四日市市） 他

イ RDF焼却・発電事業の円滑な終了に向けた取組 予算額 1,247,271千円

RDF焼却・発電施設撤去に係る工事請負契約を令和2年度に締結し、令和4年度中の完了に向けて施設の撤去工事を進めています。

引き続き、関係市町等と連携し、RDF焼却・発電事業の円滑な終了に向けて取り組むとともに、施設撤去については、安全対策、環境対策などに配慮して工事を進めます。

(ア) 電気事業 予算額 1,247,271千円

RDF焼却・発電事業の円滑な終了に向けて、施設撤去工事等の取組を進めます。

・RDF焼却・発電施設撤去工事（桑名市） 1,140,000千円

令和4年度当初予算 事業別総括表

(単位：千円)

	年度	収益的収入 (A)	収益的支出 (B)	収益的収支差 (A) - (B)	純損益 (税抜き)	資本的収入 (C)	資本的支出 (D)	資本的収支差 (C) - (D)
水道事業	3	10,167,750	9,936,551	231,199	4,298	2,223,079	6,513,469	△4,290,390
	4	9,709,375	9,466,243	243,132	34,792	517,510	6,616,660	△6,099,150
	増減	△458,375	△470,308	11,933	30,494	△1,705,569	103,191	△1,808,760
	前年度対比	95.5%	95.3%	105.2%	809.5%	23.3%	101.6%	142.2%
工業用水道事業	3	6,303,488	6,042,260	261,228	3,076	2,628,350	6,006,304	△3,377,954
	4	6,330,274	6,057,200	273,074	7,643	2,386,911	6,359,835	△3,972,924
	増減	26,786	14,940	11,846	4,567	△241,439	353,531	△594,970
	前年度対比	100.4%	100.2%	104.5%	248.5%	90.8%	105.9%	117.6%
電気事業	3	1,196	1,430,679	△1,429,483	△1,351,800	-	-	-
	4	9,092	1,426,395	△1,417,303	△1,303,932	-	-	-
	増減	7,896	△4,284	12,180	47,868	-	-	-
	前年度対比	760.2%	99.7%	99.1%	96.5%	-	-	-
合計	3	16,472,434	17,409,490	△937,056	△1,344,426	4,851,429	12,519,773	△7,668,344
	4	16,048,741	16,949,838	△901,097	△1,261,497	2,904,421	12,976,495	△10,072,074
	増減	△423,693	△459,652	35,959	82,929	△1,947,008	456,722	△2,403,730
	前年度対比	97.4%	97.4%	96.2%	93.8%	59.9%	103.6%	131.3%

令和4年度当初予算 事業別支出予算総額

(単位：千円)

\	年度	収益的支出 (A)	資本的支出 (B)		支出総計 (A) + (B)
			うち建設改良費		
水道事業	3	9,936,551	6,513,469	4,622,713	16,450,020
	4	9,466,243	6,616,660	4,768,577	16,082,903
	増 減	△470,308	103,191	145,864	△367,117
	前年度 対 比	95.3%	101.6%	103.2%	97.8%
工業用水道事業	3	6,042,260	6,006,304	4,983,243	12,048,564
	4	6,057,200	6,359,835	5,331,940	12,417,035
	増 減	14,940	353,531	348,697	368,471
	前年度 対 比	100.2%	105.9%	107.0%	103.1%
電気事業	3	1,430,679	-	-	1,430,679
	4	1,426,395	-	-	1,426,395
	増 減	△4,284	-	-	△4,284
	前年度 対 比	99.7%	-	-	99.7%
合 計	3	17,409,490	12,519,773	9,605,956	29,929,263
	4	16,949,838	12,976,495	10,100,517	29,926,333
	増 減	△459,652	456,722	494,561	△2,930
	前年度 対 比	97.4%	103.6%	105.1%	100.0%

3 令和3年度決算見込額の概要について

(1) 損益計算書及び貸借対照表（令和3年度決算見込額）

ア 損益計算書

損益計算書は、水道、工業用水道及び電気事業に係る令和3年度の収益、費用及び損益の状況を示したもので、各事業の1年間の経営成績を表しています。

収益の主なものは営業収益であり、水の供給に伴う料金収入等です。

費用の主なものは営業費用であり、施設の管理・運営に伴う経費や減価償却費等です。

(単位:百万円・税抜、%)

	水 道		工業用水道		電 気	
	R3年度	対前年度比	R3年度	対前年度比	R3年度	対前年度比
営業収益	8,111	99.8	5,417	100.3	-	皆減
営業費用	8,272	100.3	5,208	99.6	825	426.5
営業損益	△162	135.8	209	121.5	△825	426.5
営業外収益	1,316	131.2	362	98.9	2	85.7
営業外費用	760	148.1	182	92.2	65	2,859.3
経常損益	395	106.3	389	114.2	△888	458.2
特別利益	-	-	-	-	-	-
特別損失	-	-	-	-	413	137.8
純損益	395	106.3	389	114.2	△1,302	263.6
前年度繰越利益剰余金等	372	216.5	341	97.0	△494	-
当年度未処分利益剰余金	767	141.1	730	105.5	△1,795	363.6

※百万円未満四捨五入のため合計が合わない場合があります。(貸借対照表も同じ)

イ 貸借対照表

貸借対照表は、各事業の令和3年度末の資産と負債及び資本の状況を示したもので、決算日時点における財政状態を表しています。

資産は、施設等の固定資産と預金等の流動資産で構成されます。固定資産の主なものは管路や浄水場等の有形固定資産、ダム使用権等の無形固定資産です。

負債は、企業債や引当金等の固定負債、企業債（1年以内償還分）や未払金等の流動負債、国庫補助金等の繰延収益で構成されます。

資本は、資本金と剰余金で構成されます。

(単位:百万円・税抜、%)

	水 道		工業用水道		電 気	
	R3年度	対前年度比	R3年度	対前年度比	R3年度	対前年度比
固定資産	118,237	98.1	112,168	100.8	360	98.8
流動資産	12,865	108.9	8,671	102.1	1,878	59.3
資産合計	131,102	99.0	120,839	100.9	2,238	63.4
固定負債	14,101	88.0	24,552	101.8	210	126.7
流動負債	2,531	106.6	1,643	118.2	12	26.6
繰延収益	22,021	99.3	16,613	98.1	-	-
負債合計	38,652	95.2	42,809	100.9	222	105.1
資本金	90,814	100.5	76,071	100.9	3,811	100.0
剰余金	1,636	115.8	1,959	102.0	△1,795	363.6
資本合計	92,450	100.7	78,031	100.9	2,015	60.8
負債・資本合計	131,102	99.0	120,839	100.9	2,238	63.4

(2) 長期債務（企業債残高）の状況（令和3年度末現在）

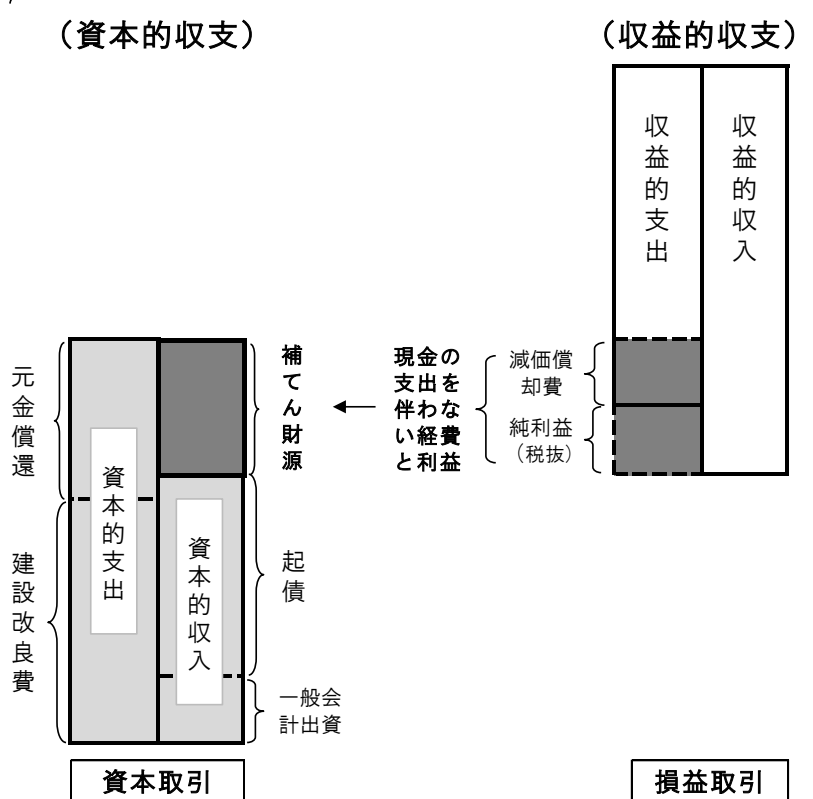
（単位：百万円）

		R 2年度末 残 高 (A)	増 減 額 (B)	R 3年度末 残 高 (A)+(B)
水 道	元 金	(2,086) 12,788	(△672) △1,836	(1,414) 10,952
	利 息	1,446	△297	1,149
工業用水道	元 金	(226) 19,209	(△111) 577	(116) 19,786
	利 息	1,487	△34	1,453
合 計	元 金	(2,312) 31,998	(△783) △1,259	(1,529) 30,738
	利 息	2,932	△331	2,602
	計	34,930	△1,590	33,340

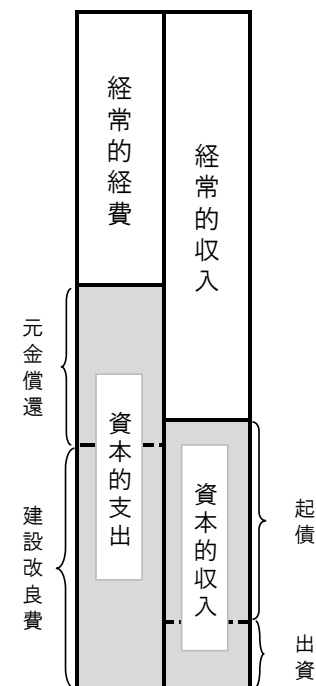
※元金欄上段の()書は、利率3%以上の企業債残高で内数。
 ※百万円未満四捨五入のため、合計が合わない場合があります。
 ※電気事業は、平成27年度で償還が完了しています。

(参考) 公営企業予算と官公庁予算

【公営企業会計のイメージ】



【一般会計のイメージ】



【事業関係】

1 水道用水供給事業

(1) 運営状況

本県の水道用水供給事業は、水源確保や行政区域を越えた施設整備の必要性から、昭和43年に志摩水道用水供給事業の給水を開始して以来、中勢水道用水供給事業、北勢水道用水供給事業、南勢水道用水供給事業の給水を順次開始しました。

その後、事業統合や拡張事業を順次実施し、市水道事業への一元化を経て、現在は、北中勢水道用水供給事業、南勢志摩水道用水供給事業の2事業を運営しており、県内18市町に水道用水を供給しています。

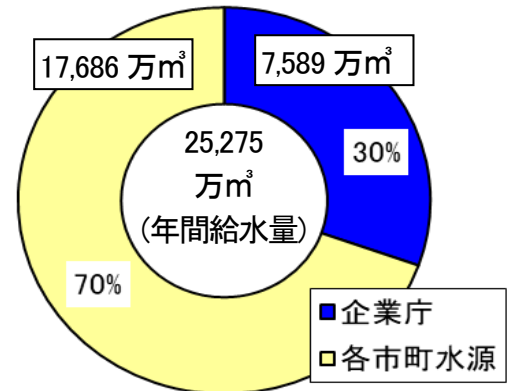
令和4年4月1日現在の給水能力は、一日あたり429,366m³となっています。

令和2年度の企業庁の給水量は7,589万m³で、県全体の給水量2億5,275万m³(注)の30%を占めています。

(令和3年度の企業庁の給水量は7,580万m³)

県内水道の給水量に 企業庁の水が占める割合

(令和2年度実績)



(注) 令和2年度三重県の水道概況 (三重県環境生活部大気・水環境課 令和4年3月) より

(2) 料金

本県の水道料金は、基本料金と使用料金からなる2部料金制を採用しています。水道料金は、原則、5年ごとに見直しを行っています。

基本料金・「基本水量」に「基本料金の料率 (円/m³・月)」を乗じて得た金額
 使用料金・「使用水量」に「使用料金の料率 (円/m³)」を乗じて得た金額

※詳細は、参考「水道料金の算定方法 (総括原価方式)」を参照 (P14)

料金表 (令和4年4月1日現在)

事業名	北中勢水道用水供給事業					南勢志摩水道用水供給事業
	北勢系 木曾川水系	北勢系 三重水系	北勢系長良川水系		中勢系	
			亀山市以外	亀山市		
基本料金の料率 (円/m ³ ・月)	700	1,710	2,230	2,430	960	780
使用料金の料率 (円/m ³)	39					

※ 料金算定期間：令和2年度～令和6年度

水道事業の概要【営業関係】

(令和4年4月1日現在)

事業名	水源 <浄水場>	計画 目標 年度	給水対象市町及び給水量 (m ³ /日)	給水能力 (m ³ /日)	給水開始 年月日
北中勢水道用水供給事業	北勢系 木曾川水系	木曾川総合用水 (岩屋ダム) <播磨>	S60 四日市市 36,200 木曾岬町 2,800 桑名市 24,300 朝日町 1,200 鈴鹿市 10,000 川越町 5,800 計 80,300	80,300	一部給水: S52. 3. 28 全部給水: S54. 4. 1
	北勢系 三重水系	三重用水 <水沢>	H12 四日市市 41,800 鈴鹿市 6,600 菰野町 2,600 計 51,000	51,000	一部給水: H3. 4. 1 全部給水: H8. 4. 1
	北勢系 長良川水系	長良川 (長良川河口堰) <播磨>	R7 四日市市 2,200 木曾岬町 2,000 桑名市 1,100 菰野町 700 鈴鹿市 2,200 朝日町 1,000 亀山市 7,400 川越町 1,400 計 18,000	18,000	一部給水: H13. 4. 1 一部給水: H21. 7. 1 全部給水: H23. 4. 1
	中勢系 雲出川水系	雲出川 (君ヶ野ダム) <高野>	S60 津市 76,916 松阪市 4,500 計 81,416	81,416	創設: S46. 6. 4 一次拡張: S56. 4. 1
	中勢系 長良川水系	長良川 (長良川河口堰) <大里>	R7 津市 50,500 松阪市 8,300 計 58,800	58,800	全部給水: H10. 4. 1
南勢志摩水道用水供給事業	櫛田川 (蓮ダム) <多気>	R2 伊勢市 37,300 明和町 2,800 松阪市 61,000 大台町 1,700 鳥羽市 20,000 玉城町 500 志摩市 10,000 度会町 500 多気町 6,050 計 139,850	139,850	一部給水: S62. 5. 1 全部給水: H27. 4. 1	
合 計			18市町	429,366	

※計画目標年度は、事業認可時において、施設能力に見合う需要が発生すると見込んだ年度

水道事業の概要【確保水源】

(令和4年4月1日現在)

水 源	計画給水量 (m ³ /日)	工 期	事業費	備 考
長良川 (長良川河口堰)	151,200	昭和43~ 平成6年度	78.2億円	水源施設は完了 (水資源機構管理)
櫛田川 (蓮ダム)	20,850	昭和46~ 平成3年度	36.1億円	水源施設は完了 (国土交通省管理)
合 計	172,050		114.3億円	

※事業費は、事業化分を除いた確保水源としての水道負担額

(3) 経営目標

「三重県企業庁経営計画」では、事業を取り巻く環境変化を的確にとらえ、将来にわたって県民のくらしの安全・安心の確保や地域経済の発展に貢献していくよう、次の経営目標を設定し、取組を推進していくこととしています。

ア 安全でおいしい水の供給

年間を通して水質基準に適合した水道水を供給するため、水源から分水（市町受水地点）までの一貫した水質管理を徹底するとともに、安全性やにおいなどに関する県民のニーズもふまえた安全でおいしい水の供給をめざします。

イ 強靱な水道の構築

南海トラフ地震など大規模地震が発生した場合にも被災を最小限にとどめることができるよう、主要施設等の耐震化を進めるとともに、水道用水を安定して供給できる状態を維持するため、経年劣化した設備の更新などの老朽化対策に加え、風水害対策に取り組み、強靱な水道の構築をめざします。

ウ 健全な事業運営の持続

水道用水は県民生活にとって必要不可欠なものであることから、社会環境等の変化に柔軟に対応し、健全かつ安定した事業運営の持続をめざします。

(4) 経営目標達成に向けた取組

ア 安全でおいしい水の供給

精度の高い水質検査を行うとともに、その結果を浄水処理工程にフィードバックすることで適切な薬品注入量を決定するなど、きめ細かな浄水処理を実施し、水質基準を遵守します。

さらに、県民の水道に対するニーズに対応し、「安全性」、「味やにおい」の観点から総トリハロメタン、カビ臭物質及び臭気強度について、国が定める水道水質基準等より高いレベルの管理目標値を設定し、水質管理を強化します。

イ 強靱な水道の構築

(ア) 耐震化

a 応急復旧期間の目標

平成27年6月に公表された「水道の耐震化計画等策定指針」(厚生労働省)に基づき、受水水道事業における応急復旧作業に必要な用水を供給するため、被災後の応急復旧期間の目標を「5日以内」としています。

b 主要施設

浄水場の浄水処理施設については、高野浄水場の6施設の耐震化が必要となっています。このため、令和2年度から同施設の耐震化を実施しており、令和7年度に全5浄水場の49施設すべての耐震化を完了させることとしています。

災害発生時に応急給水活動の拠点となる調整池などの耐震化を進めることとしており、調整池については、令和8年度までに全14池のうち12池の耐震化を完了させることとしています。



高野浄水場耐震補強工事の施工状況

c 管路

管路については、総延長約430kmのうち、耐震適合性のない管路約160kmを耐震化の対象とし、特に液状化が想定される地域に埋設されている被害率の高い管路など約23.9kmと布設後40年以上を経過した管路約10.2kmをあわせた約34.1kmの耐震化を令和8年度までに完了させることとしています。



耐震管布設工事の施工状況
(内径450 耗送水管布設替)

(イ) 老朽化対策

a 施設の長寿命化

将来にわたり水道施設の機能を維持していくには、的確に維持管理・更新を行い、中長期的なトータルコストを縮減していく必要があります。

このため、適切な保守点検を行うとともに、安全性や経済性をふまえつつ、損傷が軽微である早期段階で予防的な修繕を実施していく「予防保全型維持管理」を推進し、施設の長寿命化を図っています。



ポンプ設備の分解点検の状況
(送水ポンプ分解点検)

b 電気・機械設備

更新時期を迎える電気・機械設備については、平成29年度から令和8年度までの10年間で157設備を見込んでおり、定期的な点検を通して劣化・損傷の程度を把握し、個々の設備の耐用年数、劣化状況等を総合的に判断して更新することとしています。



更新が完了した大里浄水場の中央監視制御設備
(令和3年度完了)

(ウ) 風水害対策

浸水対策及び土砂災害対策については、対応が必要な9施設（工業用水道との共有施設1施設を含む）の対策工事を令和8年度までに完了させることとしています。また、対策完了前に被災した場合に備え、受水者におけるリスク低減を目的としたソフト対策について、受水市町との協議を進めます。

長時間停電対策については、災害時において非常用発電設備を72時間程度運転できる燃料を貯留することとし、非常用発電設備の更新に合わせ適切に対応します。

(エ) 拡張事業（未整備分）

北中勢水道用水供給事業（北勢系長良川水系・中勢系長良川水系）は、受水市町からの要請を受け、県（環境生活部）が策定した「北部広域圏広域的水道整備計画」（平成20年3月改定）に基づき、当庁が実施しています。

当該計画で、未整備となっている取水・導水施設の整備については、令和7年度の供用開始に向けて取り組んでいます。

ウ 健全な事業運営の持続

社会環境等の変化に柔軟に対応し、健全かつ安定した事業運営の持続をめざすため、アセットマネジメント手法による中長期的な視点を持った資産管理の実践や、施設規模の適正化、広域連携などについて検討していきます。

(参考) 水道料金の算定方法 (総括原価方式)

当庁の水道料金は、全国の各水道事業者が料金算定の指針としている「水道料金算定要領」(公益社団法人日本水道協会)に基づき、5年間の総括原価方式のもと、基本料金と使用料金により構成される「2部料金制」を採用しています。

1 基本料金 (資本費: 施設の建設・改良に要した費用)

$$\text{基本料金} = \frac{\text{支払利息} + \text{減価償却費} + \text{資本造成費}}{\text{(円/m}^3 \cdot \text{月)} \quad \text{基本水量 (一日最大給水量)} \times 12 \text{月} \times \text{料金算定期間}}$$

- (注) ア 支払利息: 施設の建設・改良等に要する資金に充てるため借り入れた企業債の利息
イ 減価償却費: 固定資産に投下された資本を料金で回収するもので、定額法を採用
ウ 資本造成費: 減価償却費を超える元金償還額がある場合に、その差額を計上

2 使用料金 (営業費用: 維持管理費)

$$\text{使用料金} = \frac{\text{維持管理費}}{\text{(円/m}^3) \quad \text{算定期間の全使用水量}}$$

- (注) エ 使用水量: 各市町の給水需要計画を基に算定
オ 維持管理費: 人件費、動力費、薬品費、修繕費、委託費、負担金、市町村交付金、物件費 (前記以外の経費で旅費、賃金、備用品費、燃料費、光熱水費、印刷製本費、通信運搬費、その他)

※ 料金の平準化に向けて、各水系の使用料金を 39 円で一元化しているため、使用料金で回収すべき費用の一部が基本料金に含まれています。

3 超過料金

各水系の超過料金は、180円/m³で一元化しています。

4 料金算定期間

5年間を基本としています。

2 工業用水道事業

(1) 運営状況

本県の工業用水道事業は、北伊勢臨海部の石油化学を中心とする工業の発展に伴う水需要増大や、地盤沈下に対する地下水代替水確保の必要性の高まりから、昭和31年に四日市工業用水道の給水を開始して以来、北伊勢工業用水道第1期から第4期事業へと拡張を重ねてきました。

この間、他の地域でも事業を進め、昭和38年には松阪工業用水道、昭和46年には中伊勢工業用水道の給水を開始しました。

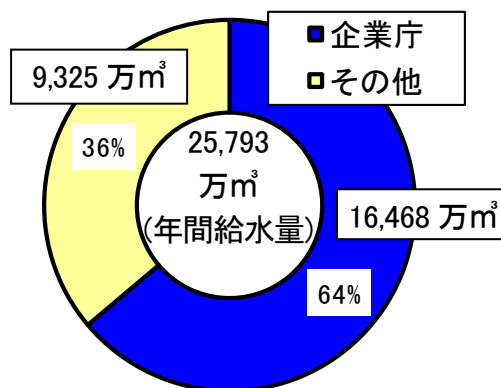
令和4年4月1日現在の給水能力は、一日あたり911,500m³で、県内の92社105工場に工業用水を給水しています。

令和元年の企業庁の給水量は1億6,468万m³で、県全体の工業用水使用量2億5,793万m³(注)の64%を占めています。

(令和3年の企業庁の給水量は1億5,948万m³)

(注) 令和2年工業統計調査(経済産業省 令和3年8月)より

県内工業用水の使用量に
企業庁の水が占める割合
(令和元年実績)



工業用水道事業の概要【営業関係】

(令和4年4月1日現在)

事業名	給水区域	給水工場数	水源 <浄水場>	給水能力 (m ³ /日)	契約給水量 (m ³ /日)	給水開始 年月日	工期	事業費 (千円)
北伊勢工業用水道事業	桑名市 四日市市 鈴鹿市 津市 朝日町 川越町	70社81工場	長良川 三重用水 <沢地> 員弁川 <伊坂> 木曾川 総合用水 (岩屋ダム) <山村>	(1,000,000) 840,000	754,990	昭和31年 4月1日	昭和28年～	(14,270,826) 63,147,035
中伊勢工業用水道事業	津市	15社17工場	雲出川 (君ヶ野ダム)	(50,000) 33,000	14,970	昭和46年 5月1日	昭和44年～	(429,110) 5,200,000
松阪工業用水道事業	松阪市	7社7工場	櫛田川	(38,500) 38,500	38,500	昭和38年 10月15日	昭和 36～62年度	908,208
合計		92社105工場		(1,088,500) 911,500	808,460			(14,699,936) 69,255,243

※ ①給水能力の()内は全体計画量、事業費の()内は水源負担額(外数)

②給水区域は、現在給水している区域

③中伊勢工業用水道事業、松阪工業用水道事業は浄水場なし

④給水工場数の合計は、各事業別の数を積み上げたもの

工業用水道事業の概要【確保水源】

(令和4年4月1日現在)

事業名	計画給水区域	水源	計画給水量 (m ³ /日)	工期	事業費
鈴鹿工業用水道事業	四日市市 鈴鹿市	三重用水	4,800	(三重用水) 昭和39年度 ～ 平成4年度	(三重用水) 約30.1億円
長良川河口堰関連 工業用水道事業 (仮称)	北勢地域	長良川 (長良川河口堰)	515,000	(長良川河口堰) 昭和43年度 ～ 平成6年度	(長良川河口堰) 約266.3億円
計	—	—	519,800	—	約296.4億円

(2) 料金

本県の工業用水道料金は、基本料金と使用料金からなる2部料金制を採用しています。工業用水道料金は、原則、5年ごとに見直しを行っています。

基本料金・・・「基本使用水量 (m³/日)」(契約水量) にその月の日数を乗じて得た水量に「基本料金単価 (円/m³)」を乗じて得た金額

使用料金・・・「使用水量 (m³/日)」(基本使用水量から休止水量^注を減じた水量) にその月の日数を乗じて得た水量に「使用料金単価 (円/m³)」を乗じて得た金額

注) 休止水量・・・使用量が少ない時期等に休止水量を申請していただくことにより、その分の使用料金を減額。休止水量変更時期は年2回(5月、11月)

※詳細は、参考「工業用水道料金の算定方法(総括原価方式)」を参照(P19)

料金表(令和4年4月1日現在)

(単位: 円/m³)

	北伊勢工業用水道	中伊勢工業用水道	松阪工業用水道
基本料金単価	14.5	27.4	14.9
使用料金単価	4.0	2.0	1.1

※ 料金算定期間: 令和3年度～令和7年度

(3) 経営目標

「三重県企業庁経営計画」では、事業を取り巻く環境変化を的確にとらえ、将来にわたって県民のくらしの安全・安心の確保や地域経済の発展に貢献していくよう、次の経営目標を設定し、取組を推進していくこととしています。

ア 強靱な工業用水道の構築

南海トラフ地震など大規模地震が発生した場合にも被災を最小限にとどめることができるよう、主要施設等の耐震化を進めるとともに、工業用水を安定して供給できる状態を維持するため、経年劣化した施設の更新などの老朽化対策に加え、風水害対策に取り組み、強靱な工業用水道の構築をめざします。

イ 健全な事業運営の持続

工業用水は産業活動にとって基礎的な要素であり、地域産業の振興、地域経済活性化のために必要不可欠なものであることから、社会環境等の変化に柔軟に対応し、将来にわたり健全かつ安定した事業運営の持続をめざします。

(4) 経営目標達成に向けた取組

ア 強靱な工業用水道の構築

(ア) 耐震化

a 応急復旧期間の目標

大規模地震による被災後の工場の操業については、水道、道路等の社会基盤が復旧してから開始されると考えられることや、阪神・淡路大震災での工業用水道の復旧状況をふまえて、被災後の応急復旧期間の目標を「6週間以内」としています。

b 主要施設

主要施設49施設のうち、浄水場の浄水処理施設など既に耐震化が完了した38施設に加え、浄水場の排水処理施設や配水池など6施設の耐震化を実施し、令和8年度までに44施設の耐震化を完了させることとしています。



耐震補強工事予定の木造取水所取水ポンプ井
(令和4～5年度施工予定)



耐震補強工事が完了した伊坂浄水場
(令和3年度完了)

(イ) 老朽化対策

a 施設の長寿命化

将来にわたり工業用水道施設の機能を維持していくためには、的確に維持管理・更新を行い、中長期的なトータルコストを縮減していく必要があります。

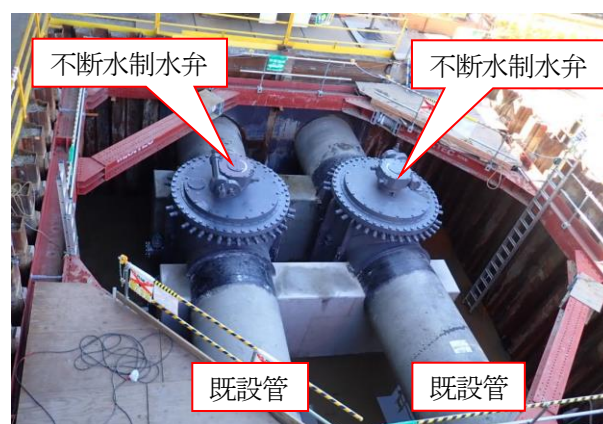
このため、適切な保守点検を行うとともに、安全性や経済性をふまえつつ、損傷が軽微である早期段階で予防的な修繕を実施していく「予防保全型維持管理」を推進し、施設の長寿命化を図っています。

b 管路

管路総延長約350 kmのうち、老朽化した管路の中でも特に重要度の高い主要幹線などを優先して、平成29年度から令和8年度までの10年間で約22.1 kmの管路の更新、69基の制水弁の取替えを計画しています。



PIP工法による既設管への鋼管挿入状況
(内径1000 耗PC管布設替)



不断水工法による制水弁取替工事の施工状況
(内径1800 耗制水弁取替)

c 電気・機械設備

更新時期を迎える電気・機械設備については、平成29年度から令和8年度までの10年間で129設備を見込んでおり、定期的な点検を通して劣化・損傷の程度を把握し、個々の設備の耐用年数、劣化状況等を総合的に判断して更新することとしています。

(ウ) 風水害対策

浸水対策については、対策が必要な7施設（水道との共有施設1施設を含む）のうち、河川改修計画がある2施設を除く5施設の対策を、令和8年度までに完了させることとしています。

長時間停電対策については、災害時において非常用発電設備を72時間程度運転できる燃料を貯留することとし、非常用発電設備の更新に合わせ適切に対応します。

イ 健全な事業運営の持続

社会環境等の変化に柔軟に対応し、将来にわたり健全かつ安定した事業運営を持続していくため、的確な水需要予測やアセットマネジメントによる資産管理を実践するとともに、施設規模の適正化などについて検討していきます。

(参考) 工業用水道料金の算定方法 (総括原価方式)

当庁の工業用水道料金は、「工業用水道料金算定要領」(経済産業省)に基づき総括原価方式により算定しており、基本料金と使用料金からなる2部料金制を採用しています。

1 基本料金 (固定的経費)

$$\text{基本料金 (円/m}^3\text{)} = \frac{\text{経費} + \text{減価償却費} + \text{支払利息} - \text{控除項目}}{\text{基本使用水量 (m}^3\text{/日)} \times \text{料金算定期間}}$$

- (注) ア 経 費 : 人件費、修繕費、負担金、その他維持管理費
イ 減価償却費 : 固定資産の価値減耗費
ウ 支払利息 : 企業債の支払利息
エ 控除項目 : 施設使用料、公舎等貸下料、受取利息、長期前受金戻入

2 使用料金 (変動的経費)

$$\text{使用料金 (円/m}^3\text{)} = \frac{\text{動力費} + \text{薬品費} + \text{汚泥処理費}}{\text{使用水量 (m}^3\text{/日)} \times \text{料金算定期間}}$$

※使用水量 = 基本使用水量 - 休止水量

- (注) オ 動力費 : 取水、導水、浄水、配水に係る電力費 (消費電力料金及び契約電力料金)
カ 薬品費 : 浄水処理に必要な薬品費
キ 汚泥処理費 : 汚泥脱水機の運転管理や汚泥処分等の汚泥処理費
ク 休止水量 : 使用者が企業庁に工業用水の使用の全部または一部の休止を申し出て、それを企業庁が承認した水量

3 超過料金

$$\text{超過料金 (円/m}^3\text{)} = (\text{基本料金} + \text{使用料金}) \times 2$$

4 料金算定期間

5年間を基本としています。

3 電気事業（RDF焼却・発電事業）

(1) 事業概要

本県のRDF焼却・発電事業は、資源循環型社会の構築を図るとともに、未利用エネルギーの有効活用を促進するための県のモデル事業として三重ごみ固形燃料発電所を整備し、平成14年12月から企業庁が運営を開始しました。

平成15年8月19日の貯蔵槽爆発事故発生に伴い運転を停止しましたが、安全対策等の施設改修及び危機管理マニュアル等を整備し、試運転を経て、平成16年9月21日から運転を再開し、安全・安定運転に努めました。

RDF焼却・発電事業の事業期間については、令和2年度末までとなっていました。平成30年7月19日に開催された三重県RDF運営協議会^(※1)総会において、「製造団体は、令和元年9月を軸に三重ごみ固形燃料発電所へのRDFの搬入を終了し、新たなごみ処理体制に移行する。」ことなどが決議されました。これを受けて、RDF製造団体は令和元年8月から9月にかけて、順次、新たなごみ処理体制に移行し、三重ごみ固形燃料発電所でのRDFの焼却・発電は令和元年9月17日をもって終了しました。

令和3年度には、三重県RDF運営協議会での決議に基づくRDF処理委託料の清算等が完了し、同協議会における事業が全て終了したことから、令和4年3月末をもって同協議会は解散しました。

現在、RDF焼却・発電施設の撤去工事等を進めており、施設撤去完了後にRDF焼却・発電事業を終了し、電気事業を廃止することとしています。

(※1) 県とRDF関係市町等で構成する協議会

RDF関係市町等（5団体12市町）

製造団体	構成市町
桑名広域清掃事業組合	桑名市、いなべ市、木曾岬町、東員町
香肌奥伊勢資源化広域連合	多気町、大台町、大紀町
南牟婁清掃施設組合	熊野市、御浜町、紀宝町
伊賀市	—
紀北町	—

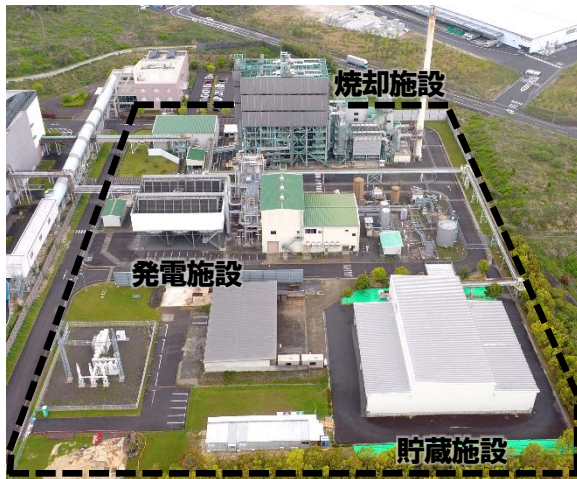
(2) RDF焼却・発電事業の終了に向けた取組

「三重県企業庁経営計画」に基づき、関係部局と連携のうえ関係市町等と調整を行い、事業の円滑な終了に向けて取り組んでいくこととしています。

ア 施設撤去

RDF焼却・発電施設については、令和4年度末までに全ての施設を撤去し、敷地の整地が完了する予定です。

引き続き、周辺環境や安全対策に十分配慮して進めるとともに、ホームページや回覧により地域住民に工事の情報を提供していきます。また、地域住民や学識経験者で構成する「RDF焼却・発電施設撤去に伴う安全管理会議」を開催し、工事の進捗及び環境保全や安全対策の状況等を報告していきます。



撤去前（令和3年5月）



現況（令和4年4月）

イ 事業の総括

事業の総括については、RDF関係市町等から事業に対する意見の聴き取りを行うとともに、関係部局と連携して環境政策の視点を含めた事業全体の検証を進め、令和4年3月に中間報告書を取りまとめました。

RDF焼却・発電施設の撤去が完了する令和5年3月に撤去に要した費用等を実績値に修正したうえで、最終報告書を取りまとめます。

令和5年3月（予定） 常任委員会「最終報告書（案）」の説明

(3) 電気事業の廃止に向けた取組

引き続き、電気事業の廃止及び財産の引継ぎについて、関係部局と連携して進めます。

【資料】

企業庁事務分掌（本庁）

本庁職員数	61人
-------	-----

